



Kofax Insight

Azure 管理者ガイド

バージョン: 6.4.0

日付: 2022-06-17

© 2018–2021 Kofax. All rights reserved.

Kofax is a trademark of Kofax, Inc., registered in the U.S. and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners. No part of this publication may be reproduced, stored, or transmitted in any form without the prior written permission of Kofax.

目次

序文.....	4
製品ドキュメント.....	4
トレーニング.....	5
Kofax 製品のヘルプの入手.....	5
第 1 章: Kofax Insight の Azure へのインストール.....	7
前提条件.....	7
Azure でのストレージとクラウド サービスの作成.....	7
ストレージ.....	7
クラウド サービス.....	8
構成 (.cscfg) ファイルの更新.....	8
HTTPS.....	8
SQL 接続設定.....	8
ロールとインスタンス数.....	9
ストレージ名とアクセス キー.....	10
Azure での Insight パッケージのデプロイメント.....	10
第 2 章: Azure での Kofax Insight の使用開始.....	11
Insight 機能の配信.....	11
ロールの構成.....	11
一時的な障害の解決.....	13
ライセンスのアクティブ化.....	13
Insight アプリケーションへのアクセス.....	14
複数の Viewer へのアクセス.....	14
ビュー モード.....	14
編集モード.....	15
ログ管理.....	15

序文

Kofax Insight の構成および保守を行う管理者は、このガイドの情報を使用してください。このガイドでは、推奨される構成および設定について説明しています。

製品ドキュメント

Kofax Insight のドキュメント セットは、次の URL からオンラインで入手できます。¹

<https://docshield.kofax.com/Portal/Products/Insight/6.4.0-yznsd78sen/Insight.htm>

完全なドキュメント セットには次の項目が含まれます。

Kofax Insight リリース ノート

このガイドに含まれない最新の製品情報が記載されています。

Kofax Insight 技術仕様

サポートされているオペレーティング システムおよびその他のシステム要件に関する情報が含まれています。

Kofax Insight Azure 管理者ガイド

Kofax Insight Azure 環境における構成と保守を担当する管理者向けの情報が記載されています。

¹ 完全なドキュメント セットにオンラインでアクセスするには、インターネットに接続する必要があります。インターネット接続に接続されていない場合のアクセスについては、「オフライン ドキュメント」を参照してください。

Kofax Insight のヘルプ システム

状況に応じたオンライン ヘルプは、次の Kofax Insight アプリケーションから直接利用できます。

Kofax Insight Admin Console のヘルプ

Admin Console アプリケーションの機能を説明しています。

Kofax Insight Data Loader のヘルプ

Data Loader アプリケーションの機能を説明しています。

Kofax Insight Multi-Tenant Console のヘルプ

Multi-Tenant Console アプリケーションの機能について説明しています。

Kofax Insight Studio のヘルプ

Dashboard Designer および Viewer を含む、Studio アプリケーションの機能を説明しています。

Kofax Insight Themes and Formats のヘルプ

Themes and Formats アプリケーションの機能を説明しています。

Kofax Insight Viewer のヘルプ

Viewer アプリケーションの機能を説明しています。

チュートリアル

Insight インストール パッケージのサンプル プロジェクトで使用するためのチュートリアルには、クイック スタート ガイドが含まれています。

トレーニング


Insight は、Insight ソリューションを最大限に活用するためのコンピュータ ベースのトレーニングを提供しています。詳細については、www.kofax.com の Kofax Web サイトをご覧ください。

Kofax 製品のヘルプの入手

[Kofax Knowledge Base (Kofax ナレッジ ベース)] リポジトリにある記事の内容は定期的に更新され、Kofax 製品の最新情報について参照できます。製品に関してご不明の点がある場合は、Knowledge Base (ナレッジ ベース) で情報を検索することをお勧めします。

[Kofax Knowledge Base (Kofax ナレッジベース)] の参照:

1. [Kofax Web サイト](#) にアクセスして、ホームページで [サポート] を選択してください。
2. [サポート] ページが表示されたら、[カスタマーサポート] > [ナレッジベース] を選択してください。

 [Kofax Knowledge Base (Kofax ナレッジ ベース)] は Google Chrome、Mozilla Firefox または Microsoft Edge 向けに最適化されています。

[Kofax Knowledge Base (Kofax ナレッジ ベース)] は以下の内容を提供します。

- 強力な検索機能で必要な情報をすぐに見つけることができます。

[Search (検索)] ボックスに目的の語句を入力し、検索アイコンをクリックしてください。

- 製品情報、設定の詳細、リリース情報などのドキュメント。

[Kofax Knowledge Base (Kofax ナレッジ ベース)] のホームページをスクロールして、製品ファミリーを見つけます。目的の製品ファミリー名をクリックして、関連記事の一覧を表示します。一部の製品ファミリーの場合は、関連記事を表示するために Kofax Portal (Kofax ポータル) の有効なログイン情報を入力する必要があります。

Knowledge Base (Kofax ナレッジベース) のホームページで以下が可能です。

- Kofax Community (Kofax コミュニティ) へのアクセス (全カスタマー)。
ページ上部の **[Community (コミュニティ)]** リンクをクリックしてください。
- Kofax Customer Portal (Kofax カスタマー ポータル) へのアクセス (資格のあるカスタマー向け)。
ページ上部の **[Support (サポート)]** リンクをクリックしてください。[Customer & Partner Portals Overview (カスタマーとパートナー ポータル概要)] が表示されたら、**[Log in to the Customer Portal (カスタマー ポータルにログイン)]** をクリックします。
- Kofax Partner Portal (Kofax パートナー ポータル) へのアクセス (資格のあるパートナー向け)。
ページ上部の **[Support (サポート)]** リンクをクリックしてください。[Customer & Partner Portals Overview (カスタマーとパートナー ポータル概要)] が表示されたら、**[Log in to the Partner Portal (パートナー ポータルにログイン)]** をクリックします。
- Kofax サポート コミットメント、ライフサイクル ポリシー、電子フルフィルメントの詳細、セルフサービス ツールへのアクセス。
[General Support (一般サポート)] セクションに移動し、**[Support Details (サポートの詳細)]** をクリックし適切なタブを選択します。

第 1 章

Kofax Insight の Azure へのインストール

この章には、Azure での Kofax Insight 6.4.0 のインストール手順と構成手順が含まれます。開始する前に前提条件を確認してください。

Azure の Kofax Insight は、2 つの構成タイプをサポートしています。

- シングルテナント: Insight 上の単一のテナントと単一の Insight Administration データベース。管理者は、Insight 上のすべてのプロジェクトの管理を担当します。
- マルチテナント: Insight 上の複数のテナントで、各テナントにはプロジェクト データベースを持つ個別の Insight 管理者が設定されています。管理者はテナントごとに作成され、それぞれが独自のプロジェクトを管理します。

前提条件

Azure で Kofax Insight をインストールおよび使用するには、[ストレージ アカウント](#)、[クラウド サービス](#)、[更新済みの構成ファイル](#)が必要です。

大部分の設定は、シングルテナント 構成と マルチテナント 構成で共通しています。マルチテナント構成の場合、プロジェクトの各セットに専用のデータベースと管理者アカウントを作成し、[構成ファイル](#)の設定を更新する必要があります。構成のタイプを選択するよう要求されない限り、このガイドの指示に従ってください。

[Azure ポータル アカウント](#)と次のファイルの最新バージョンにアクセスできることを確認してください。

- KofaxInsight-6.4.0_ForAzure.ZIP に含まれる Kofax Insight の Azure パッケージと構成ファイル。
この ZIP ファイルはダウンロード可能で、Kofax フルフィルメント サイトの Kofax Insight 6.4.0 パッケージにリストされています。
- SSL 証明書 (クラウド URL とのセキュアなセッションを開始するために必要です)。自己署名証明書を使用することもできます。

Azure でのストレージとクラウド サービスの作成

このセクションでは、Azure の Kofax Insight プロジェクトのセットアップに必要なストレージ アカウントとクラウド サービスの作成方法について説明します。

ストレージ

Azure ポータルにログインし、Microsoft Azure ページの指示に従ってストレージ アカウントを作成します。

クラウド サービス

Kofax Insight に対してクラウド サービスを使用するには、次の手順を実行します。

1. Azure ポータルでクラウド サービス (クラシック) を作成します。
2. 右側のパネルで、[アップロード] をクリックしてクラウド サービスに SSL 証明書をアップロードします。
3. [証明書のアップロード] ウィンドウが表示されたら、証明書を参照して選択します。

構成 (.cscfg) ファイルの更新

先に進む前に、KofaxInsight-6.4.0_ForAzure.ZIP から次のファイルを抽出します。

- AzureInsight.XXXX.cspkg - Insight Azure パッケージ
- ServiceConfiguration.Cloud.cscfg - 構成ファイル

ServiceConfiguration.Cloud.cscfg を開きます。構成のタイプに応じて、次のサブセクションで説明している変更を行います。

HTTPS

証明書をアップロードすると、証明書のサムプリント文字列が表示されます。文字列をコピーし、InsightWebRole という名前のロールの下で構成ファイルの <Certificates> セクションの設定を更新します。

```
<Certificates>
  <Certificate name="Altosoft.Azure.https" thumbprint="938C535844FCCDA9B342A862635321EA5AF74D1" thumbprintAlgorithm="sha1" />
</Certificates>
```

SQL 接続設定

Azure ポータルで SQL サーバーを作成します。次の手順を実行し、構成のタイプに応じた構成ファイルを設定します。

シングルテナント構成の場合:

ServiceConfiguration.Cloud.cscfg 内で Insight Admin データベースの接続文字列を変更します。

1. SQL サーバー名、Administration データベース名、SQL ユーザー ID、およびパスワードを設定します。既存の Administration データベース名を指定した場合は、最新のバージョンに更新されます。新しい Administration データベース名を指定すると、自動的に作成されます。
SQL データベースの資格情報を取得するには、[Azure] > [SQL データベース] > [接続文字列の表示] に移動します。
2. Insight.TenantAdmin.MasterDBConnectionString 値は空白のままにします。

```
<Setting name="Insight.Admin.MasterDBConnectionString" value="Server={ServerName};Database={DatabaseName};User ID={UserID};Password={Password};Trusted_Connection=False;Encrypt=True;Connection Timeout=30;" />
<Setting name="Insight.TenantAdmin.MasterDBConnectionString" value="" />
```


マルチテナント構成の場合:

ServiceConfiguration.Cloud.cscfg で Insight のマルチテナント Admin データベースの接続文字列を変更します。

1. SQL サーバー名、SQL ユーザー ID、パスワード、およびマルチテナント Administration データベースを設定します。既存のマルチテナント Administration データベース名を指定した場合は、最新のバージョンに更新されます。新しいマルチテナント Administration データベース名を指定すると、自動的に作成されます。

SQL データベースの資格情報を取得するには、**[Azure] > [SQL データベース] > [接続文字の表示]** に移動し、構成ファイルにそれらをコピーします。

2. `Insight.Admin.MasterDBConnectionString` 値は空白のままにします。

```
<Setting name="Insight.Admin.MasterDBConnectionString" value="" />
<Setting name="Insight.TenantAdmin.MasterDBConnectionString" value="Data Source={ServerName};
Initial Catalog={MultitenantAdminDatabaseName}; User Id={userID}; Password={password};" />
```

条件付きで、データソースの構成の設定を変更する必要がある場合があります。詳細については、『Help for Kofax Insight Studio』(Kofax Insight Studio のヘルプ)の「接続キー」セクションを参照してください。

ロールとインスタンス数

ロールを使用して、Azure の Insight 機能を管理します。構成ファイルで、スケジューラ ロールを見つけて設定します。対応するユーザー ログインを入力します。次の例では、デフォルトのユーザー ログインを使用しています。

- シングルテナント構成の場合は、
`<Setting name="Insight.Scheduler.Login" value="Administrator"/>` と指定します。
- マルチテナント構成の場合は、
`<Setting name="Insight.Scheduler.Login" value="MTAdmin"/>` と指定します。

❗ Insight が Azure にインストールされている場合は、インターフェイスで他のロール設定を構成できません。

次に、ロール インスタンスを続行します。これにより、中断のないパフォーマンスが確保され、エラーや切断などの何らかの理由で特定のロール インスタンスが失敗した場合、2 番目のインスタンスがタスクを引き継いで処理を続行します。ロールの切り替えはパフォーマンスに影響しません。

ロールのインスタンスの最小数は 1 です。詳細については、クラウドサービスの仕様に関する Microsoft のドキュメントを参照してください。

高可用性を目的として、ロールごとに 2 つのインスタンスを指定することを推奨します。

`<Instances count="2"/>` を見つけて設定し、インスタンスの数を指定します。この値は `InsightWebRole` および `SchedulerRole` に適用され、構成ファイルの関連セクションで各ロールに個別に設定されます。

```
<role name="InsightWebRole">
  <Instances count="2" />
</configurationSettings>
```

```
<role name="SchedulerRole">  
  <Instances count="2" />  
</ConfigurationSettings>
```

ストレージ名とアクセス キー

ストレージは、Insight ログ、および Insight ファイル (プロジェクト) のインポートとエクスポートに使用します。

プライマリ アクセス キーをコピーするには、**[Azure] > [ストレージ] > [アクセス キーの管理]** に移動します。アクセス キーは、ストレージ アカウントへのアクセスを提供します。このキーは Azure によって生成され、必要に応じて再生成できます。

ストレージ アカウントの名前とキーを使用して、ファイル **ServiceConfiguration.Cloud.cscfg** を更新する必要があります。次の例では、ストレージ アカウント名は **insightdk** です。

1. InsightWebRole の名前を更新し、アカウント キーを変更します。
2. SchedulerRole のアカウント キーと名前を変更します。
3. 構成ファイルを保存します。

Azure での Insight パッケージのデプロイメント

構成ファイルを更新した後に、AzureInsight.cspkg パッケージを Azure クラウド サービスにアップロードします。

1. **Azure > クラウド サービス** に移動します。
2. **[本番環境]** または **[ステージング]** を選択し、**[アップロード]** をクリックします。
[パッケージのアップロード] 画面が表示されます。
3. Insight の Azure 製品ファイルを参照して選択し、次を選択します。
 - AzureInsight.cspkg (パッケージ ファイル)
 - ServiceConfiguration.Cloud.cscfg (構成ファイル)

デプロイメント プロセスは、40 ~ 60 分かかる場合があります。デプロイメントが完了したら、[https://\[クラウド サービス URL\]/insight/admin](https://[クラウド サービス URL]/insight/admin) を使用してブラウザで Insight を開きます。Insight をマルチテナント モードで構成する場合は、[https://\[クラウド サービス URL\]/insight/admin/MTConsole.aspx](https://[クラウド サービス URL]/insight/admin/MTConsole.aspx) から Multi-Tenant Console にログインする必要があります。

i 詳細については、Admin Console または Multi-Tenant Console ヘルプ システムを参照してください。

第 2 章

Azure での Kofax Insight の使用開始

Azure の Kofax Insight はオンプレミスの Insight と同様ですが、以下のような例外があります。

- Windows 認証はサポートされていません。
- スケジューラはクライアント側では使用できません。ソース データベースは、Azure 環境内から (スケジューラ サーバー インスタンスから) 利用可能であると想定されています。
- ファイル プロセッサは許可されていません。

Kofax Insight の機能の使用に関する詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。

Insight 機能の配信

Insight の Azure インスタンスには、次の機能が含まれます。

- **InsightWebRole:** Viewer、Studio、Data Loader、Themes and Formats、WCF データ サービスおよび Multi-Tenant Admin Console サービスが含まれます。
- **SchedulerRole:** 手動および自動データ ロード、アラート、レポート配信などのスケジューラ サービスが含まれます。

ロールの構成

Azure に Insight がインストールされている場合、Azure ポータルで次のように Insight ロール設定を構成します。

1. Azure ポータルにログインし、[クラウド サービス] > [構成] > [InsightWebRole] に移動します。
Web ロール設定の構成ダイアログ ボックスが表示されます。

2. 設定を構成し、変更を保存します。

Microsoft.WindowsAzure.Plugins.Diagnostics.Connectio...	DefaultEndpointsProtocol=https;AccountName=insight...
Insight.Admin.MasterDBConnectionString	Server=tcp:insightdb.database.windows.net,1433;Initial ...
Insight.TenantAdmin.MasterDBConnectionString	
Insight.TriesCount	3
Insight.TimeBetweenTries	20
Insight.Storage	DefaultEndpointsProtocol=https;AccountName=insight...
Insight.LogLevel	Debug
Insight.LogTimeThreshold	
Insight.TimeZone	Pacific Standard Time
Insight.DataProcessing.Readers.IsLoggingEnabled	false

3. [クラウド サービス] > [構成] > [SchedulerRole] に移動します。

スケジューラ ロール設定の構成ウィンドウが表示されます。

4. 設定を構成し、変更を保存します。

i 有効なユーザー ログインとパスワードを指定してください。指定しない場合、データのロードは失敗します。

Microsoft.WindowsAzure.Plugins.Diagnostics.Connectio...	DefaultEndpointsProtocol=https;AccountName=insight...
Insight.Scheduler.Timeout	300
Insight.Scheduler.HACheckInterval	5000
Insight.Scheduler.LogQuery	true
Insight.Scheduler.ExecutionInterval	15000
Insight.Scheduler.AdvancedLog	false
Insight.Storage	DefaultEndpointsProtocol=https;AccountName=insight...
Insight.LogLevel	Debug
Insight.TimeZone	Pacific Standard Time
Insight.LogQuery	true
Insight.Scheduler.Login	Administrator
Insight.Scheduler.Password	*****

一時的な障害の解決

接続文字列を使用して Azure SQL サーバー上のソースからデータを選択するクエリを実行すると、一時的なエラーが発生する場合があります。通常、一時的な障害は、接続の復元後にクエリが正常に再試行されると解決されます。

一時的な障害が発生すると、すでに収集済みのすべての一時データが削除され、データ ソースへの接続が正常に復元されると、データ収集プロセスが再開されます。

次の手順を使用して、一時的な障害状態を処理するための設定を行います。一時的な障害が発生した場合に Administration データベースまたはデータ ソースへの接続を試行するタイミングと回数を定義できます。

❶ これらの設定は、SQL サーバーのデッドロックを解決するためにも適用されます。詳細については、Insight Admin Console のヘルプを参照してください。

1. Azure ポータルにログインし、[クラウド サービス] > [構成] > [InsightWebRole] に移動します。Web ロール設定の構成ダイアログ ボックスで値を入力し、変更を保存します。
 - **[Insight.TriesCount]** (デフォルト値は 3): デッドロックまたはその他の一時的な障害が発生した場合にデータ ソースへの接続を試行する回数を指定します。
 - **[Insight.TimeBetweenTries]** (デフォルト値は 20): 一時的な障害が発生した場合にデータ ソースへの接続を確立する各試行の間の経過秒数を設定します。
2. Insight パッケージのデプロイ後に、カスタム設定を定義してデータ ソースに接続できます。Studio および Admin Console で、[ドキュメント ツリー] > [データ ソース] に移動し、データ ソースを選択します。選択したデータ ソースの接続文字列が表示されます。
 - a. [プロパティ パネル] 内の[その他] グループに次の設定を調整します。
 - [試行間の時間]
 - [試行カウント]
 - b. デフォルト設定にロールバックするには、[プロパティ パネル] の [その他] グループで、[試行カウント] パラメータを0に設定します。

ライセンスのアクティブ化

Kofax の営業担当者または Kofax サポートから製品ライセンスを取得します。オンプレミスの Insight の説明と同様の手順に従って製品ライセンスをアクティブ化します。詳細については、Kofax Insight Admin Console ヘルプを参照してください。

❶ マルチテナント構成用の Multi-Tenant Cloud ライセンスをアクティブ化していることを確認します。

Insight アプリケーションへのアクセス

Viewer、Studio、Data Loader、Admin Console、Themes and Formats、Multi-Tenant Admin Console や WCF データ サービスなどのすべての Insight Web アプリケーションとサービスには、SSL (HTTPS) のみを介してアクセスできます。次の設定のタイプに応じた HTTPS を使用していることを確認します。

- シングルテナント: [クラウド サービス URL]/insight/admin
- マルチテナント: [クラウド サービス URL]/insight/admin/MTConsole.aspx

Azure にデプロイされた Kofax Insight は、次の 2 つのモードを適用します。ビュー モードと編集モード
ビュー モードでは、Viewer とデータ ロード サイトでのみ作業できます。Admin Console、Themes and Formats、Multi-Tenant Admin Console または Studio などの他の Insight アプリケーションで作業するには、編集モードを有効にする必要があります。

Admin Console > アクション タブに移動して、モードを切り替えます。現在の状態に応じて、編集モードをオンに設定 ボタン、または 編集モードをオフに設定 ボタンを使用できます。このボタンをクリックすると、モードが変更され、強制的に Admin Console 再ログインします。

複数の Viewer へのアクセス

構成ファイルの **Insight.Web.AdditionalViewers** 設定を使用して、ビューという名前のデフォルト インスタンスに加えて、作成されたそれぞれの Viewer インスタンスに名前を割り当てることができます。

デフォルトでは、この設定値は空です。**LoginView**、**InternalView** などのように、セミコロンで区切って Viewer アプリケーション名のリストを定義します。この場合、Insight は、Web ロールの開始時に **LoginView** と **InternalView** という名前の 2 つの追加 Web サイトを作成します。

Viewer のリストが定義されている場合、構成のタイプに応じて次の認証タイプを割り当てることができます。

- マルチテナント: マルチテナント管理者は、Multi-Tenant Console でアプリケーションの認証タイプを変更します。デフォルトでは、[ユーザーのログインおよびパスワード...] 認証が設定されています。
- シングルテナント: Insight テナント管理者は、Admin Console でアプリケーションの認証タイプとユーザー マッピングを変更します。デフォルトでは、[認証なし] が設定されています。

ビュー モード

ビュー モードでは、Data Loader がプランをスケジュールした場合に、ユーザーは実行されたプランのログのみを確認できます。

- 他の Insight アプリケーション (Studio または Themes and Formats など) にアクセスしようとすると、ログイン画面に "Enter in the edit mode." というエラーが赤で表示されます。
- Admin Console にアクセスしようとすると、機能が制限された状態で開かれます。アクション タブには、編集モードをオンに設定、バージョン情報、およびログアウト ボタンのみが表示されます。ツール タブには、ログをダウンロード アイコンが表示されます。

[編集モードをオンに設定] をクリックして編集モードを有効にし、[ここ](#) で説明されている制限以外のすべての機能を備えた Studio、Data Loader、Themes and Formats、そして Admin Console にアクセスします。

❗ マルチテナント構成では、編集モードは各テナントに対して個別に定義されます。

編集モード

編集モードでは、パフォーマンスが低下した状態ですべての Insight アプリケーションを使用できます。

ログ管理

ログ管理はどのモードでも使用できます。次の手順を使用して、Azure にデプロイされた Insight のログファイルをダウンロードまたは削除します。

1. Admin Console を起動し、[ツール] タブに移動します。
2. [ログをダウンロード] ボタンをクリックします。
[ログをダウンロード] ウィンドウが表示されます。
3. リストからログ タイプを選択し、必要に応じて間隔を設定します。
4. 選択したすべてのログを削除するには、[削除のみ] チェックボックスをオンにします。選択したログをダウンロードするには、[削除のみ] チェックボックスをオフにします。[OK] をクリックします。
進行状況を示すインジケータが画面に表示されます。
5. ログ ファイルを削除すると選択した場合は、[ツール] タブが選択された状態で Admin Console に戻ります。ログ ファイルのダウンロードを選択した場合は、ログ ファイルが **ExportLogArhive.zip** という名前のファイルでデバイスにダウンロードされます。